

企画展「商家のうつわ - 湖東の商家伝来のやきもの -」展示作品リスト

番号	名称	数量	作者	時代	所蔵
～膳碗～					
1	にしきでななつぐみぜんわん 錦手七ツ組膳碗	1揃		江戸時代後期	聚心庵
2	そめつけきりきくもんなつぐみぜんわん 染付桐菊紋七ツ組膳碗	1揃	富永源六	明治時代	聚心庵
3	しよしきひかえ 諸式控	1冊		文政9年(1826)2月～明治29年(1896)10月	聚心庵
4	こんだてがき 献立書	1通		昭和2年(1927)3月28日	聚心庵
～蓋付碗～					
5	にしきでかきずふたつきわん 錦手花卉図蓋付碗	2合(20合の内)		江戸時代後期	彦根市文化財課(石田承玉氏寄贈)
6	にしきではなからくさもんふたつきわん 錦手花唐草文蓋付碗	5合(20合の内)		江戸時代後期	個人
7	そめつけあみもんふたつきわん 染付網文蓋付碗	5合		江戸時代後期	個人
～小鉢～					
8	にしきでかきもんこぼち 錦手花卉文小鉢	1口		江戸時代後期	個人
9	にしきでいわにはなずこぼち 錦手岩に花図小鉢	1口		江戸時代後期	個人
～皿～					
10	そめつけふようでかきにむしずちゆうざら 染付芙蓉手花卉に虫図中皿	22枚		江戸時代後期	個人
11	にしきでりゆうもんちゆうざら 錦手龍文中皿	1枚		江戸時代後期	個人
12	そめつけきくずはつかくちゆうざら 染付菊図八角中皿	1枚(40枚の内)		江戸時代後期	聚心庵
13	そめつけはなからくさもんちゆうざら 染付花唐草文中皿	1枚(27枚の内)		中国・清時代	個人
14	にしきではなからくさもんちゆうざら 錦手花唐草文中皿	1枚(40枚の内)		江戸時代後期	個人
15	にしきでりんかたねじもんこざら 錦手輪花形捻文小皿	5枚(20枚の内)		江戸時代後期	個人
16	そめつけろうかくさんすいざら 染付楼閣山水図小皿	5枚(20枚の内)		江戸時代後期	個人
17	にしきでかきもんこざら 錦手花卉文小皿	5枚(21枚の内)		江戸時代後期	個人
18	じっきんでこざら 十錦手小皿	10枚(20枚の内)		中国・清時代	個人
～大鉢と大皿～					
19	そめつけきくぼたん・きくさくらずはち 染付菊牡丹・菊桜図鉢	1対		江戸時代後期	個人
20	にしきでかきもんふたつきばち 錦手花卉文蓋付鉢	1合		江戸時代後期	個人
21	にしきでふなあそびずはち 錦手舟遊図鉢	1口		江戸時代後期	個人
22	そめつけさんすいざら 染付山水図四方皿	1対		江戸時代後期	個人
～重箱～					
23	にしきでおりづるもんじゆうばこ 錦手折鶴文重箱	1合		江戸時代後期	個人
24	そめつけかきずじゆうばこ 染付花卉図重箱	1合		江戸時代後期	当館(三宅紀久代氏・大石友美氏寄贈)
25	にしきでまつにつるずじゆうばこ 錦手松に鶴図重箱	1合		明治～大正時代	彦根市文化財課(石田承玉氏寄贈)
～酒器～					
26	そめつけあかえきんさいほうおうもんみつぐみさかずき・はいだい 染付赤絵金彩鳳凰文三ツ組杯・杯台	1式	永楽保全	江戸時代後期	個人
27	いろえふうけいもんとつくり 色絵風景文徳利	1対		江戸時代後期	個人
28	すみえさんすいざら 墨絵山水図銚子・盛果図馬上杯	1式		明治～大正時代	個人
29	そめつけいろえさんすいざら 染付色絵山水図徳利・高足杯	1式	井野祝峰	明治～大正時代	聚心庵

番号	名称	数量	作者	時代	所蔵
30	あかえきんさいじんぶつずとつくり 赤絵金彩人物図徳利	1対		江戸～明治時代	個人
31	そめつけからじんぶつずはつかくしゆはい 染付唐人物図八角酒杯	5口		中国・清時代	彦根市文化財課（井戸庄三氏寄贈）
32	そめつけがんぎもんしゆはい 染付雁木文酒杯	2口（7口の内）		中国・清時代	個人
33	あかえきんさいじんぶつずぼじょうはい 赤絵金彩人物図馬上杯	1口		江戸～明治時代	個人
～煙草盆と火鉢～					
34	そめつけほうおうはなもんひばち 染付鳳凰花文火鉢	1基		江戸時代後期	当館（井戸庄三氏寄贈）
35	きじたばこぼん（つれたり:せいじよほうがたひいれ） 木地煙草盆（附：青磁四方形火入）	1式		江戸時代後期	個人
36	きじたばこぼん（つれたり:そめつけぎよそうもんひいれ・たけはいふき） 木地煙草盆（附：染付魚藻文火入・竹灰吹）	1式		江戸～明治時代	彦根市文化財課（井戸庄三氏寄贈）

## 写真解説

\*番号は作品リストの番号と一致します。

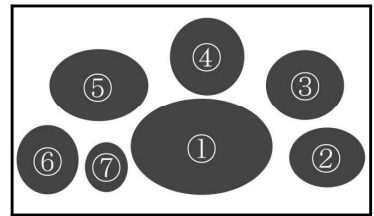
### 1 錦手七ッ組膳碗 1揃

①焼物皿：口径21.1cm ②手塩皿：口径10.6cm ③飯碗：口径11.3cm ④生盛皿：口径15.7cm  
⑤膾皿：口径14.0cm ⑥大猪口：口径8.9cm ⑦小猪口：口径4.7cm \*番号は写真下の挿図に対応します。

江戸時代後期  
聚心庵蔵



同じ意匠で統一された、本膳料理のための器。飯を盛る蓋付きの碗、和え物や酢の物などの副菜を盛り付ける鉢として用いられた猪口や生盛皿、膾皿、焼魚などを載せる焼物皿、塩などの調味料を入れる手塩皿の揃いです。祝宴などの晴れの席のもてなしにふさわしい、華やかな意匠で彩られています。江戸時代から五個荘の有力な商家として知られた塚本定右衛門家伝来の品で、文久元年（1861）に、初代定右衛門の五女さんと結婚し、さんと共に別家（甲|塚本家）を立てた原三（初代源三郎）が、実家より持参した品と伝えられています。



### 13 染付花唐草文中皿 1枚（27枚の内）

口径14.9cm  
中国・清時代  
個人蔵

江戸時代に湖東地域の宿場に店を構えて手広く商売を行った富裕な商家に伝来した中国清時代の皿。高台内に染付で、清代嘉慶年間（1796～1820）の作であることを示す銘が記されています。

注目されるのが、この皿の収納箱に、「南京藍染付唐草模様皿 三拾人前」、「文政四辛巳二月 於長崎調之」と書付が入っている点で、これにより、



高台内染付銘「大清嘉慶年製」

嘉慶年間の直後にあたる文政4年（1821）に、長崎において南京染付、すなわち、中国製品であるという認識をもって入手されたことが分かります。

中国清代の陶磁器は、江戸時代後期から明治時代のころ、日本で、「今渡<sup>いまわたり</sup>」あるいは「新渡<sup>しんわたり</sup>」と呼ばれて流行しました。本作の他にも、湖東の商家の旧蔵品中に清朝陶磁が多く見られ、陶磁器生産の先進国であった中国清代の製品が、食器として好んで用いられた様子をうかがい知ることができます。

### 23 錦手折鶴文重箱 1合

口径16.0cm

江戸時代後期

個人蔵

松竹に折鶴の吉祥文と、花唐草、変り格子の文様を、染付や色絵、金彩で表した重箱。意匠の華やかさから、正月のおせち料理などに用いられたと考えられます。

重箱は、同じ大きさの箱を重ねた器で、江戸時代の初め頃に、宴席での肴を盛ったり、野外の行楽に持ち出す器として用いられるようになりました。

江戸時代中期以降に、提げ重箱<sup>さしじゆう</sup>という携帯用の重箱が考案されると、本来の重箱は、主に正月料理を入れたり、贈答品を詰める器として用いられるようになります。たとえば五段重では、一の重に鯛やかずのこ、ごまめ、黒豆などの縁起物の酒肴を、二の重には甘い味付けのきんとんや伊達巻など、三の重に焼魚、与（四）の重に根菜などの煮しめ、五の重には酢の物をというように、重ごとに入れるものを区別し、その味付けや彩りにも工夫が凝らされました。



### 26 染付赤絵金彩鳳凰文三ッ組杯・杯台 1式

永楽保全作

大杯:口径8.3cm 中杯:口径7.3cm

小杯:口径6.4cm 杯台:最大径11.2cm

江戸時代後期

個人蔵

染付と赤絵金彩で、鳳凰などの模様を描いた大小三重の杯と杯台。現在も、結婚式などで三三九度の献杯が行われているように、儀礼的な酒のふるまいにおいては、大小三重の杯に冷酒を注ぐ方式がとられてきました。本作も、そのような場で用いられたと考えられます。

永楽保全（1795～1854）は、代々土風炉制作を業とした永楽家の11代で、精力的に施釉陶器の制作に携わりました。その優美な作風は、当時、大いに評判を呼び、紀州和歌山藩をはじめとする各藩の招聘を受け、各地で製陶に携わり、近江の地大津でも、湖南窯を興すなど、めざましい活躍を遂げました。湖東の商家の旧蔵品には、保全のほかに、高橋道人や清水六兵衛などの京焼の陶工の作品が多く見出され、京焼の一大需要地であったことがうかがわれます。



杯台 高台内染付銘  
「大日本永楽製」